

スタスタLIVE英検

オンライン英検®専門指導 個別学習設計

SAMPLE

架空のモデルケースです

CASE 04 HIGH SCHOOL / EIKEN GRADE 2

高校2年生 佐野 陽菜さん

英検2級 合格プラン

現在地の診断と、合格までの学習設計

高校1年で準2級を取得し、高校2年の春に2級を受験して不合格。合計CSEスコア1420で、一次試験の合格基準1520まであと100でした。このモデルでは、大問別の正答数と技能別CSEを確認し、語彙と英文要約を優先します。志望校の募集要項と提出期限を確認したうえで、受験回を決めます。

受験予定

2027年1月24日（日）

従来型 第3回 一次 / 注3

学習期間

145日間

2026年9月1日から

1日の学習量

およそ1時間30分

週10.5時間に相当

この資料は、お一人ずつ手作りしています

本書は見本としてお見せするための架空のモデルケースです。実際にお渡しする資料は、面談で伺った内容だけをもとに、診断も図の数値も日程も文章も、すべてその方のために書き起こします。テンプレートに名前を差し替えたものではありません。

スタスタLIVE英検 無料相談資料 見本

英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。本書に登場する人物・成績・日程はすべて架空のモデルケースであり、実在の受講生とは関係ありません。問題数・満点スコア・合格基準スコア・試験日は同協会の公表情報に基づきます。

00 EXECUTIVE SUMMARY

この計画の要点

診断、最優先の打ち手、見通し、そして前提が崩れる条件。

所見

高校2年春の2級受験は合計1420点。合格基準1520点まであと100点でした。技能別ではリーディング480点、リスニング510点に対してライティングが430点。大問別ではリーディング大問1の語彙が8/17（およそ47%）と最も低く、ここが全体を押し下げています。実力が足りないというより、**取りこぼしが特定の場所に集中している**状態です。

最優先の打ち手

大問1の語彙と、英文要約の型。この2つに絞ります。全体の底上げはしません。

このモデルでは、大問1の語彙が8/17で、技能別CSEはライティングが3技能の中で最も低い状態です。この2点を優先し、模試と添削で変化を確認します。CSEスコアは正答数から単純計算できないため、「あと100」を技能別に配分せず、実際の答案と大問別の正答数で優先順位を見直します。

数字で見た見通し

前回の合計スコア

1420 / 1950

合格基準まであと100点

大問1 語彙

8 / 17問

正答数8/17
このモデルで優先

一次まで

145日

9月1日から1月24日

確保できる学習量

約217時間

1日1.5時間 × 145日

このモデルでは、受験日までの145日間に1日90分を置くと、計画上の学習時間は約217時間です。実際の可否や到達時期は、学習の実施状況と模試・過去問の結果によって変わります。語彙と英文要約を優先し、定期テストや模試が重なる週は学習量を調整します。

模試と定期テストが重なり、週の学習時間が5時間を下回る週が3週続いた場合は、受験回を見直します。志望校の利用条件・提出期限と次の検定日程を確認して決めます。

この資料の読み方。1章で現在地とつまずきの原因を切り分け、2章でいつ受けるかを逆算し、3章でその先の見通しを置きます。4章が日々の打ち手、5章が想定されるつまずきと計画の組み替え条件です。6章以降は進め方と体制のご説明になります。

01 DIAGNOSIS / 1

現在地を、数字で押さえる

あと100点。どこに残っているかを、数字で押さえます。

現在地（高校2年春・2級 一次の成績より）

2級 一次の合計CSEスコア（3技能・1950点満点）

合格基準 1520

1420

合格まであと 100 点

技能別CSEと大問別正答数から優先項目を決めます

Reading（読む）

480/650

技能別CSEスコア

大問1 語彙8/17
このモデルで優先

Listening（聞く）

510/650

技能別CSEスコア

3技能で最も高い
維持対象

Writing（書く）

430/650

技能別CSEスコア

3技能で最も低い
英文要約を確認

図1：満点1950点、合格基準1520点、技能別満点650点は日本英語検定協会の公表情報より（注2）。技能別スコアと大問別の正答数は架空のモデルケースの数値です。実際の資料では、お手元の成績表の実数で作成します。

準2級から2級で、すでに越えた壁と、残っている壁

- 2級のリスニングは全問1回放送です（注1）。このモデルでは技能別CSEが3技能の中で最も高いため、維持対象とします。ただし、CSEだけで放送1回への対応力を断定せず、過去問の正答状況も確認します。
- 残っている壁その1。** 大問1の語彙です。準2級の15問から2級では17問に増え、抽象度も上がります。8/17という数字は、知識ではなく物量の問題である可能性が高いところです。
- 残っている壁その2。** 英文要約です。準2級のライティングはEメールと意見論述でしたが、2級は英文要約と意見論述（注1）。1問目がまったく別の形式に入れ替わっており、準2級の書き方は使えません。
- CSEスコアは正答率ではなく、正答数から単純計算できません。このモデルでは、大問別の正答数と答案を確認し、語彙と英文要約を優先します。

01 DIAGNOSIS / 2

つまずきの原因を切り分ける

あと100点が届かない原因を4つに分け、どれが当てはまるかを判定しました。

考えられる原因	判定	そう判断した根拠	この計画での扱い
① 大問1の語彙	該当	8/17でおよそ47%。17問あり、リーディング31問の半分以上を占める最大の塊です。	最優先。1日30分を固定配分。イラスト付きの単語帳を作ってお渡しします。
② 英文要約の型	該当	準2級にはなかった形式です。書いてはいますが、要約の作法を知らないまま自己流で書いています。	最優先。1日25分。答案を添削し、型と内容を確認します。
③ リスニングの聞き方	非該当	技能別CSEは3技能で最も高い状態です。過去問の正答状況も確認します。	時間を使いません。1日5問で現状維持のみ。新しい教材は足しません。
④ 基礎文法・構文	非該当	長文の内容一致は5/8。文法は過去問の誤答箇所だけ確認します。	時間を使いません。文法問題集は追加せず、過去問で間違えた箇所だけ戻ります。

図2：前回の成績表の大問別データと、面談で伺った学習の様子から判定しています。実際の資料では、成績表の実数と実際の答案を拝見したうえでこの表を作成します。

この診断から導いた、時間配分の方針

- 該当と判定した2項目に、1日90分のうち**55分**を配分します。残りは維持と確認にあてます。
- 非該当と判定したリスニングと文法には、新しい枠を置きません。教材も追加しません。
- 長文は独立した対策時間を取らず、**語彙の定着を確認する場**として使います。

このモデルでは、大問別の正答数と答案を確認し、語彙と英文要約を優先します。リスニングと文法は過去問の正答状況を見ながら維持対象とし、必要に応じて配分を変えます。CSEスコアは正答率ではないため、「あと100」を技能別に割り振らず、定期テスト・模試・志望校の期限に合わせて計画を更新します。

02 BACKCASTING ゴールから逆算する

145日。定期テストと模試を織り込み、実施状況で配分を見直します。

目標は2027年1月24日（日）の一次試験で、準備期間は9月1日から前日までの145日です（注3）。1日90分を置くと計画上是約217時間ですが、時間だけで可否は判断できません。定期テストと模試を織り込み、過去問と添削の結果を見ながら配分と受験回を調整します。



図3：一次試験日は日本英語検定協会が公表している2026年度第3回の日程です（注3）。二次はA日程が2月28日、B日程が3月7日で指定されます。S-CBTであれば一次と二次が1日で完結し、日程も選べます。

1日のうち、英語に充てる時間の内訳（合計およそ90分）

語彙 30分	英文要約 25分	聞く 15分	長文 20分
該当。単語帳とアプリで	該当。書いて、直す	非該当。維持のみ	語彙の定着を確認する場合
定期テスト2週間前は語彙だけに落とし、その分を前後の週に寄せます。1週間の合計で管理します			

図4：配分は診断の判定にそのまま対応させています。該当2項目で55分、非該当と判定したリスニングは維持の15分のみ。文法には枠を置いていません。

高校生の計画で、気をつけること

模試と定期テストは、先に計画から外します。

高校2年の後半は模試が増えます。日程を先に伺って、その週は語彙だけに落とします。崩れてから慌てるのではなく、崩れる週をあらかじめ計画に織り込んでおきます。

志望校の英検利用条件と提出期限を先に確認します。英検の扱いは大学・学部・方式で異なるため、学年だけで一律の最終期限は決めません。このモデルでは1月を第一候補にし、学習状況と募集要項に応じて次の受験回を検討します。

03 ROADMAP 合格までの全体像

2級を通過点として、その先まで見通しを立てます。

2級は高校卒業程度の目安です（注4）。英検を大学入試に利用できる大学・方式はありますが、必要な級・CSEスコア・提出書類・有効期間は志望校ごとに異なります。募集要項を確認し、このモデルではまず2級を目標にします。その先の級と個別試験対策は、志望校と学習状況に合わせて整理します。

一次試験の合格基準CSEスコア

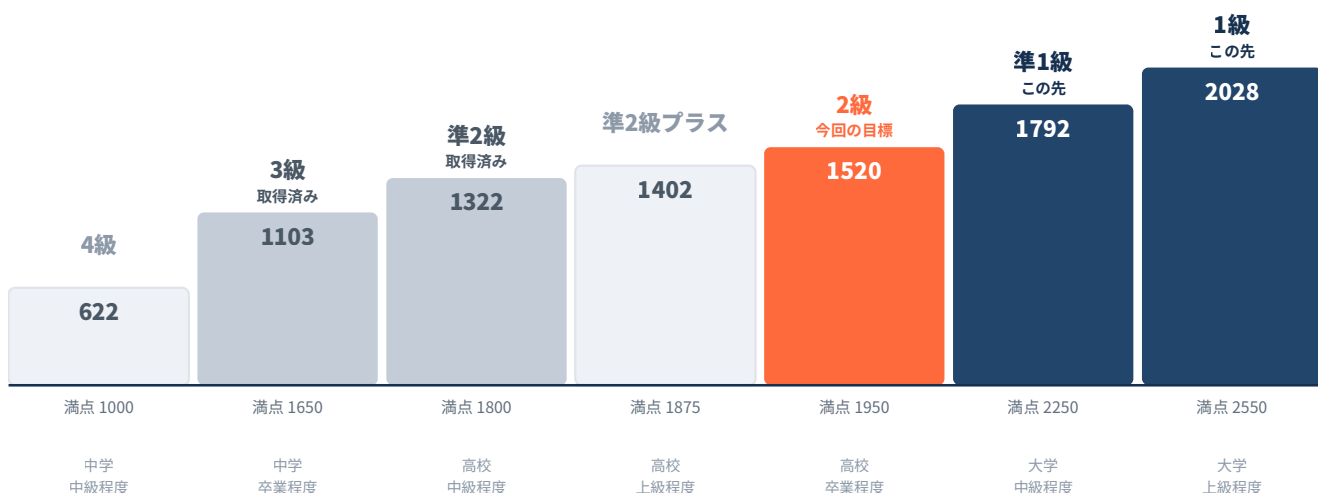


図5：棒の高さは一次試験の合格基準CSEスコアです（注2）。各級の満点CSEと、英検協会が示す級の目安も併記しています（注4）。

2級のあと、どう進むか

- ・高2で2級（今回） 高校卒業程度の目安です。このモデルの最初の目標です。
- ・その後の準1級 大学中級程度の目安です。入試利用の条件や個別試験対策は、志望校・方式ごとに異なります。
- ・その先の1級 大学上級程度の目安です。大学入学後や留学など、目的に応じて検討します。

先の級まで見通すと、現在の級で優先する技能を整理できます。このモデルでは、大問別の正答数と答案から語彙と英文要約を優先し、過去問と添削の結果に応じて計画を見直します。

04 PROGRAM

毎日の学習メニュー

診断で該当と判定した2項目に、時間の6割を寄せています。

語彙

毎日30分

大問1を、物量で潰す

大問1の語彙が8/17だったため、このモデルでは語彙を優先します。授業で扱う長文から重要語を抽出し、イラスト付きの単語帳を作成します。市販の「でた単」は定着確認に並行して使います。

なぜ。大問別の正答数と答案から、語彙を優先項目にしたためです。実施後は過去問で変化を確認します。

英文要約

週3〜4回

準2級にはなかった形式を、型から

英文要約は本文の論理をたどって短くまとめる作業で、意見論述とは頭の使い方がまったく違います。どこを残しどこを落とすかの基準を先に入れます。書いたものは講師が目で見えて添削し、なぜその一文を残すのかまで扱います。

なぜ。技能別CSEが3技能の中で最も低く、答案から英文要約の型を確認する必要があるためです。

リスニング

1日5問

維持のみ。新しいことはしません

2級のリスニングは全問1回放送です。自社アプリで1日5問を続け、週1回の通し模試で正答状況を確認します。このモデルでは技能別CSEが3技能の中で最も高いため、維持対象とします。

長文

週2回

独立した対策時間は取りません

長文の内容一致は5/8で、大問1の語彙は8/17でした。このモデルでは語彙を優先し、長文は覚えた語を文脈の中で確認するために使います。実施後の正答状況によって配分を見直します。

文法

枠を置かず

問題集は追加しません

準2級を一度で取得しており、文法の骨格は入っています。過去問と長文で間違えた箇所から戻る形にすれば、必要な範囲だけを短時間で埋められます。

なぜ。非該当と判定した項目です。高校2年の後半に文法問題集を1冊回すのは、時間の使い方として割に合いません。

やらないことを、はっきり決めています。リスニングの追加教材も、文法問題集も入れません。どちらも2級対策として一般的に勧められるものですが、今回の診断では非該当と判定した項目に対応します。あと100点という距離では、伸びない場所に使う時間そのものがコストになります。

04 MATERIAL

語彙は、この単語帳で覚えます

その回の問題に出た語を、こちらで抽出してお渡しします。

市販の単語帳を渡して終わりにはしません。読む長文が変わるたびに、その回の問題に出た重要語を抽出し、イラスト付きの単語帳を作ってお渡しします。語の意味を文脈やイメージと一緒に確認できる形にします。

2025年度 第2回 英検 準1級
リーディング Part1・Part3
覚える単語一覧

トトマルと一緒に覚えよう！
毎日の一歩が
大きな力になるよ！

この単語帳の使い方

- ★すべての単語に、意味を表すイラストがついているよ！
- ★声に出して読んだり、例文を音読して覚えよう！
- ★最後にテストもあるから、しっかり復習できるよ！

1/15

★ Part1 語彙問題 18語 (7~12)

7 tolerate 許容する、我慢する
8 massive 巨大な、大規模な
9 accommodate 収容する、対応する
10 forthcoming 直前に情報を送る
11 indebted 借りがある、負債を背負っている
12 escort 付き添う、護送する

2/15

★ Part1 語彙問題 18語 (13~18)

13 batch 一団、ひとまとまり
14 evoke 感情などを呼び起こす
15 figure on 推定する、予測する
16 shoot down 撃ち落とす、撃下する
17 tear down 取り壊す
18 get down 降りる

3/15

Part3 長文1 「Rocket Science」 前半30語 (1~6)

1 household name 有名な人、著名人
2 media coverage メディアによる報道
3 achievement 業績、偉業
4 behind the scenes 裏方で、目に見えないところで
5 play a crucial role in ... 重要な役割を果たす
6 unsung hero 無名英雄、目立たない英雄

4/15

Part3 長文1 「Rocket Science」 後半30語 (7~12)

7 conduct calculations 計算を行う
8 complex calculation 複雑な計算
9 spacecraft 宇宙船
10 navigation ナビゲーション
11 aerodynamics 空気力学
12 orbital physics 軌道物理学

5/15

6/15

なぜ、わざわざ作るのか

- その回の長文に出た重要語を抽出し、文脈と一緒に確認します。
- イラストと例文を添え、語の意味を複数の手がかりで確認できる形にします。
- 授業で扱った長文に出た語なので、本文を振り返りながら意味を確認できます。
- 巻末テストで、意味と例文を自分で確認できる形にします。

市販の「でた単」も、定着確認に並行して使います。その回の長文に出た重要語は、文脈と一緒に確認します。見本は準1級の回ですが、同じ形式で2級の回を作成します。

見本：2025年度第2回 準1級のリーディングから作成した単語帳（全15ページ）。Part1の語彙18語と、長文「Rocket Science」に出た語を抽出しています。すべての語にイラスト、読み方、例文と和訳がつき、巻末にテストがあります。級と回が変われば、その回のぶんを作り直します。

05 RISK & DECISION

想定されるつまずきと、計画の組み替え

高校生の学習で実際に起きることを、先に洗い出しておきます。

先回りして手当てしておくこと

想定されるつまずき	起きやすい時期	兆候	あらかじめ決めておく手当て
模試と定期テストが重なる	10月～11月	2週間ほど英検の課題が止まる。	日程を先に伺い、その週は語彙だけに落とします。止めるのではなく量を変え、前後の週に寄せます。
英文要約が自己流に戻る	12月	焦ると本文の言い換えではなく、抜き出しに戻る。	型のチェックリストを手元に置き、提出前に自分で確認する手順にします。添削でも毎回そこを見ます。
語彙が暗記で止まる	10月	単語帳は進むが、長文で出てきても反応できない。	週2回の長文を、覚えた語が実際に出てくるかの確認の場として使います。出会い直しを設計に入れます。
高3進級で英語の優先度が下がる	2027年4月以降	他科目に押されて、英検が後回しになる。	志望校の提出期限と他科目の予定を確認し、受験回を見直します。

図6：高校生の2級再挑戦で実際に起きやすい順に並べています。実際の資料では、模試の日程、部活、志望校の状況を伺ったうえで、その方に起きやすいものを選んで書きます。

計画を組み替える条件を、先に決めておきます

週の学習時間が
5時間を下回る週が3週続いた

1月の受験回を見直します。志望校の利用条件・提出期限、次の検定日程、他科目の予定を確認して候補を決めます。

11月の模試で
大問1が12/17を超えた

語彙の正答状況が改善したと判断し、30分から20分に減らします。空いた10分を英文要約に回し、次の答案で確認します。

12月の過去問・模試で
各大問と答案の到達状況を再確認

1月を受験候補として維持するかを、過去問の正答数・答案、志望校の条件、他科目の予定から判断します。

期限は志望校の募集要項と学習状況から決めます。このモデルでは1月を第一候補にしていますが、学年だけで一律の最終期限とはしません。

06 TRACKING 学習を見える化して続ける

本人が自分で管理できる状態を、少しずつ作ります。

お一人ずつ学習計画表を作り、毎日やることを明確にします。演習は自社アプリのスタスタAppsで正答率と弱点を数字にし、1日の学習が終わった段階でLINEに画面を送っていただきます。高校生の場合はご本人と直接やり取りし、進み具合を確認しながら計画を調整します。

学習のサイクル



図：授業で入れた型を宿題で使い、アプリと模試で結果を確認して、また授業に戻す。この循環があるので、やっただけで終わりません。

不足している部分を、どう見つけて埋めるか

- 模試とアプリの正答率で、**どの技能のどの大問で落としているかを特定**します。今回のように大問1が原因だと分かれば、そこだけに絞れます。
- 実施した学習量を確認すると、計画との差に早めに気づけます。過去問や模試の結果と合わせて、受験回や次に優先する技能を見直します。
- 疑問はLINEでいつでも質問できます。次の授業まで抱えておく必要はありません。

保護者様への共有もできます。ご本人と直接やり取りしつつ、進み具合だけを保護者様にも共有するという形が選べます。学習の中身に口を出さずに把握できる状態にしておくと、ご家庭でのやり取りが減ります。

07 DELIVERY 授業と、担当のこと

分かったつもりで通り過ぎる時間を作しません。

担当は固定です

毎回先生が変わることはありません。学習の進み具合を把握した担当が一人つき、4技能をまとめて見ます。技能ごとに先生が分かれることはないため、全体を踏まえた指示が出せます。1回の授業は55分です。

部活と模試に合わせて組みます

曜日固定ではなく、担当講師と直接すり合わせて組みます。部活の終わる時間が遅い日でも、遅めの開始で対応できます。模試や定期テストの日程も、前もって伺って調整します。

授業でやること

授業では実際の英検の問題を使います。提出した英文要約を添削し、どの一文を残し、どれを落とすかを一緒に確認します。語彙も、覚えたかどうかを口頭で聞くだけでなく、実際の文の中で意味を確認します。

コーチング（授業とは別の時間です）

授業の時間を学習内容に使い切るため、**計画表の更新と全体の戦略は別枠**で行います。5章の分岐に書いた条件に当てはまるかどうか、ここで判断します。2級のあと準1級に進むと学習の中身が変わるので、その設計もここで扱います。大学入試で外部検定をどう使うかという方針も、志望校が固まってきた段階でご相談いただけます。

相性について。大学生の先生とプロの先生が在籍していますが、料金はどちらも同じです。年齢に近いほうが話しやすく、続けやすいこともあります。万が一、担当講師との相性が気になる場合は、交代もご相談いただけます。

08

PLAN

コースの選び方

回数が増えるほど手厚くなります。金額は別紙料金表をご覧ください。

このモデルでは、語彙と英文要約を優先します。英文要約は提出と添削を繰り返し、二次のスピーキングも並行して扱う想定です。受講回数は、必要な添削回数、受験までの期間、学校予定を確認し、月6回または8回を候補にします。直前期などは月ごとに調整できます。

コース	回数	対策できる範囲
ライトコース	月4回	一次対策のみ。自習を中心に、要点だけ見てほしい場合。
スタンダードコース 推奨	月6回	一次に加えてスピーキングも並行。
スタンダードコースプラス 推奨	月8回	ライティングや弱点にさらに時間をかけたい場合。
プレミアムコース	月12回	最も手厚いコースです。

オレンジの行が、このモデルケースでの推奨です。回数は週あたりではなく月あたりで設定します。金額は本書には記載していません。別紙料金表をご確認ください。

お手続きの要点

- 入会金は初月のみ。お支払いはクレジットカード決済です。
- 回数は週あたりではなく**月あたり**で設定します。
- 受講できなかった分は原則、翌月へ振替対応します。
- コース変更は毎月**25日まで**のご連絡で翌月から反映されます。
- 受験直前の月だけ回数を増やす使い方もできます。
- 友人紹介制度があります。

教材について。イラスト付きの単語帳はこちらで作成してお渡しします。でた単は無料、スタスタAppsも受講中にご利用いただけます。過去問集は市販のものをご用意ください。診断で非該当と判定したリスニング教材と文法問題集は、今回は追加しません。

09 ABOUT この資料について

見本は架空です。実物は、お一人ずつ手作ります。

ここまでお読みいただいた診断も、数値も、日程も、**架空のモデルケース**です。実際にお渡しする資料は、面談で伺った内容だけをもとに**お一人ずつ作り直します**。とくに1章の診断と5章の分岐は、その方の話を聞かなければ書けない部分です。

面談のあと、ここが差し替わります

- **診断（1章）**。つまづきの原因の切り分けは、伺った手ごたえと過去の学習経験から判断します。この資料の中心です。
- **現在地の図**。成績表をお持ちであれば、技能別CSEと大問別の正答数という実数で作り直します。
- **日程**。実際に空いている会場と日程、受験方式、申込の開始日時まで調べたうえで置きます。
- **教材と1日の配分**。お持ちの教材を仕分け、生活リズムに合わせて量を決めます。
- **リスクと分岐（5章）**。その方に起きやすいつまづきと、計画を組み替える条件を書きます。

無料相談の流れ

- 1 お申し込みいただきます。オンラインで、およそ50分です。
- 2 現在地と目標、生活リズムを伺います。分かる範囲で構いません。
- 3 あなたのための計画表をお送りします。料金表とあわせてLINEでお届けします。

最後に

このモデルでは、高校2年のうちの2級合格を目標にします。実際の可否や到達時期は、現在地、学習量、過去問・模試の結果によって変わります。

無料相談のお申し込みは、こちらからどうぞ。

apps.studystudio.jp/live-eiken/consultation

出典

注1 公益財団法人 日本英語検定協会「各級の試験内容」（大問ごとの形式と問題数）

注2 同「英検CSEスコアとは」および同協会FAQ（技能別の満点スコア、一次試験の合格基準スコア）

注3 同「2026年度 試験日程（個人でお申し込みの方）」（従来型の一次試験日・二次試験日）

注4 同「各級の目安」（推奨する学習の目安）

注5 スタスタLIVE英検 調べ（学習計画の考え方）